藤田先生の紫綬褒章受賞によせて

俣　野　　博（数学教室）

平成元年３月に本学を停年退官された藤田宏先生は，この度，数学の研究・教育の御業績，およびそれらを通じての広範な社会的御貢献により，平成２年度の紫綬褒章を受賞されました。先生の御受賞は，私ども数学教室の後進のみならず，本学理学部にとって，まことに喜ばしく，また，広く我国の数学研究者・教育関係者に大いに励みになるものと思われます。ここに，御受賞を心よりお祝い申し上げます。

藤田先生は，昭和３年に大阪府にお生まれになり，昭和27年３月東京大学理学部物理学科を御卒業，同大学大学院に進学され，昭和31年東京大学理学部助手に就任されました。その後，東京大学工学部講師，同助教授を経て，昭和41年に理学部教授に昇任されました。それから御退官までの23年間，理学部数学教室で教鞭をお執りになりました。その間，昭和62年４月には東京大学評議員，昭和63年４月から平成元年３月までは理学部長をお勤めになり，本学の研究教育活動の発展に尽くされました。御退官後は明治大学理工学部の教授として，研究・教育に従事しておられます。

藤田先生の学問上の御業績は，概して４つの分野に分けられます。ひとつは，流体力学に現れるナビエ・ストークス方程式の研究，第二は，非線

形熱方程式の解の爆発の研究で，前者は昭和30年代より加藤敏夫元カリフォルニア大学教授（元東大理学部教授）と共同で，後者は昭和40年代初頭から精力的に取り組まれました。これらの御研究は，近代的な関数解析的手法を応用解析学の分野に取り入れる先駆けとなり，その独創的な着眼点は，その後の当該分野の研究の出発点になったものとして，世界的な評価が今日定着しています。なお，このナビエ・ストークス方程式の御研究により，先生は昭和39年に第５回藤原賞を受賞されました。

藤田先生の御業績の第三は，数値解析に関するお仕事で，とりわけ有限要素法の作用素論的基礎づけの成果は，工学の提起する問題に対する精緻な数学的研究の典型として高く評価されています。御業績の第四番目は，数学教育に関するものです。この分野で先生は幾多の研究成果をあげられ，それらは我国の高等学校の教育課程の改善に影響を及ぼしたのみならず，数学教育の目標と理念について画期的な論説として高く評価され，諸外国の注目を浴びています。本年（1990年）日本で開催された４年に一度の国際数学者会議（ＩＣＭ，参加者数約4000名）では，先生は数学教育についての招待講演を行なわれました。先生はまた，応用数学関係の日米セミナーや日仏セミナーの日本側責任者を勤められる一方，幾つかの関係学術誌の創刊を企画されるなど，我国の応用数学の振興に多大の貢献をなされています。

藤田先生は，前述の東京大学評議員，理学部長のほか，本学の理学系研究科委員長，中間子センター長など多くの任務を担当され，学外においては，日本数学会理事長，日本数学教育学会顧問，日本科学教育学会理事等を歴任され，また，学術審議会専門委員，教育課程審議会委員，学術会議会員（14期）として，我国の学術・教育行政に多大な寄与をなされました。

先生は，戦時中，米軍の爆撃で御尊父を眼前で失われ，苦学して学問の道を歩まれました。苦労人らしく，練れた御人柄で，軽妙な機知に富む会話の端々に，相手への思いやりが感ぜられます。また，ジョークを交えた軽いやり取りの中に論旨が無駄なく適確に表現されていることに，口下手な私などは感心することがしばしばでした。本学在任中はもとより，御退官後も多忙を極めた先生の御活躍ぶりです。お祝いを申し述べるとともに，御自愛の上，一層の御発展をお祈り申し上げます。